

群馬県議会 リベラル群馬

後藤かつみ

2021年第1回定例会報告

会派代表質問に登壇

新年度予算を斬る!

街頭演説

3700日

大胆な事業見直し、
財政健全化はおおいに評価

単に事業を“削る”のではなく、
“磨く”視点で

公共事業も
生活密着型に転換せよ

“再エネ”“水素”
温室効果ガスゼロへ取り組み加速

発行 群馬県議会 後藤かつみ事務所
住所 高崎市八幡町 800-24
TEL&FAX 027-343-1393
e-mail ccrgoto@af.wakwak.com

http://www.ccrgoto.com/
http://www.eaglesgoto.com/
(スマートフォン用)

検証1 コロナ禍の歳出圧力VS財政健全化

財政健全化

事業見直し

厳しい歳出圧力の中、
ギリギリ健全性を維持

「削る」だけでなく、効果を
上げるために「磨く」視点

新年度予算では、全国の自治体の多くが軒並み大型予算を組み、過去最高額を計上する自治体も多く見られます。
新型コロナウイルスに伴う経済対策が口実となり、どうしても財布の紐が緩みがちな状況の中、群馬県はギリギリ健全性を維持できたこと評価できます。

後藤が注目したのは「借金」と「貯金」。
まず、県債には様々な種類があります。**が、実質的な「借金」と言えるのは、公共事業等のために発行する県債**です。これを次年度予算では、歳出抑制努力により、発行額を前年度比76億円減額することができたことは評価できます。

そういった努力により、実質的な「貯金」である財政調整基金を年度当初で**26億円確保**することができ、新型コロナウイルス等で不測の事態が生じて、県独自の対策を打てる一定の余力を残せたことも評価できます。

県民会館の廃止を打ち出すなど、大胆な合理化路線イメージの山本知事ですが新年度予算に向けては事業を単に「削る」のではなく、より事業の効果を発揮できるように「磨く」視点が見られることは評価できます。

例えば、記事に紹介されている事業は、元々は県産木材を利用する住宅に支給されていた補助金ですが、政策効果は未知数でした。
これを、省エネ住宅や太陽光パネルの設置など、温室効果ガス削減に資する住宅に隔って支給する制度に変えました。

このように、業界等の関係者には有り難い補助金でも、政策効果が不明な事業にメスを入れ、知事の掲げる政策目標に向けて効果を発揮できる制度に「磨き」をかける視点が多く見られました。

新たな借金発行⇒76億円減
貯金の確保⇒24億円

将来へのツケを最小限に抑えつつ、コロナへも備えも怠らない。財政出動の大合唱の中、良く踏ん張りました。



「5つのゼロ」達成向け施策

県産材住宅業者への補助
県産材住宅業者への補助
「5つのゼロ」達成に向け、県産材住宅業者への補助。これは、県産材住宅業者への補助。これは、県産材住宅業者への補助。

補助金を単に削るのは芸が無いけど、知事の掲げる「5つのゼロ宣言」の達成に繋げる中身にリニューアルした辺りはなかなか惜しいね。



2月19日上毛新聞記事抜粋